

シリーズ3、富山で育つ宿根草の組み合わせとデザイン②

職藝学院

教授 渡邊 美保子

青色フジバカマ

青色フジバカマは、一年草のアゲラタムに良く似た花を咲かせる寒さに強い宿根草です。草丈は50cm位で、9月初旬から10月中旬にかけて淡い青紫色の小花が集まって咲きます。満開になると水色の絵の具で点々と染めたような姿になります(写真1)。開花期間は、宿根草としては長く1ヶ月以上もあります。また、花壇に一株植えると地下茎が横に伸びて広がってゆくため、雑草が入りにくくなります。広い土地を持てあましている方には特におすすめです。



写真1：青色フジバカマ 9月中旬

青色フジバカマは、5月の中旬には黄緑色の新芽が出そろい、6月から7月にかけて地下茎を横に伸ばして人知れず陣地を拡大していきます。土がむき出しになっているところが大好きです。お隣さんの宿根草にぶつかると、前進が止まったように見えますが、実は、どこかに根っこを伸ばせる隙間がないか探しています。

青色フジバカマは、植え付けて一年目は、まるで一年草のアゲラタムのように、その場所でおしとやかに咲いてくれます。そのため、植えっぱなしでいいアゲラタムを手に入れた気分になって、植え替えをしなくて楽ちんだ、と喜びます。しかし、3年目位になると、どんどん陣地を拡大していくので、どこまで広がったら気が済むのだろうかかと不安になります。はたして、すべて抜くべきか、育てるべきか、こんどは、もんもんと悩みます。引き抜いて捨てるのも忍びないので、青色フジバカマを持っていない人が花壇にやってくると、毎年咲いてくれて重宝しますよと、宣伝して株を分けてあげてほっとします。それもつかの間、根っこを掘り上げた後に地面がむき出しになるので、根っこの勢いは増すばかりです。そこで、青色フジバカマの勢いのある地下茎の侵入をくい止める方法をお伝えしたいと思います。7月初旬ごろに好ましくないところまで侵入している地下茎をはぎ取ります。はぎ取る時に切れた地下茎は土に残さないよう

にしましょう。それから、青色フジバカマの株の周りに沿って、茎を一つかみ握っては切り、また、握っては切って、地面から5cmぐらいのところまで切り戻します(写真2)。花が咲く前に、このひと手間をかけてあげると自分の陣地でおとなしく咲いてくれるようです。

写真2：青色フジバカマの茎の切り戻し(手前)
7月初旬

青色フジバカマは、東南から南側の日当たりのよい場所を好みます。西日の当る暑い所は苦手なようです。植え付ける前に、完熟牛糞堆肥をたっぷりすき込みましょう。おすすめの組み合わせは、いろいろな一年草との混植花壇です。青色フジバカマを花壇の奥に植えて、その手前に段々と草丈が低くなるように一年草を組み合わせます。青色フジバカマの隣には、黄色系統のマリーゴールドやメランポジューム、紫色のセンニチコウなどの一年草を植えますと、6月から10月頃まで楽しめる花壇になります。(写真3)



写真3：青色フジバカマ(淡青)、センニチコウ(紫)、メランポジューム(黄)など。とやまスローライフ市民農園「花の散歩道花壇」10月初旬